

【近畿コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

くらしのブンカサイ in いこま 2023

書道教育専修 2 回生 神余 友唯

1. 日時：2023 年 11 月 5 日(日)
2. 場所：びっくり通り商店街、ベルテラスいこま 3 階ベルテラスステージ、他周辺施設
3. 参加者：社会科教育専修 4 回生 北野 結衣
特別支援教育専修 3 回生 志原 那歩
社会科教育専修 3 回生 山平 楓
美術教育専修 2 回生 東 瑞
書道教育専修 2 回生 神余 友唯
社会科教育専修 2 回生 木幡 美幸
国語科教育専修 2 回生 吉岡 優来
数学教育専修 1 回生 奥村 壮之佑
美術教育専修 1 回生 坂本 大奈

4. 活動内容の概要

くらしのブンカサイ in 生駒 2023 にユネスコクラブとしてブースを出したのと、奈良北高校の生徒と一緒に SDGs〇×クイズを行った。ブースでは、「生駒市をより良くするために」というテーマで来場者の方にアイデアや意見を書いてもらい、大きな木を完成させた。〇×クイズでは、会場の参加者の方たちと一緒に身の回りにある問題を SDGs の視点から考えていった。

幅広い年代の方たちと触れ合いながら、状況に応じて臨機応変に主体的に行動することが出来た。

5. 参加学生の学び・感想

来場された方の思いを葉っぱ型の紙に書いてもらい、それを木の模造紙に貼り付けてもらったのだが、私自身要望が多いと予想していたにもかかわらず、生駒の良いところを書かれる方が多かった。住み続けられるまちづくりにはなくてはならないという思いが強いのだと感じた。街のことを想い、考える機会は重要だとこの経験を通して実感した。

SDGs でいわれると考えにくいことも街単位で考えることで具体的になっていた。参加される方の気持ちを第一に、自分たちの伝えたい思いをのせて企画・運営することが大切だと学んだ。

(社会科教育専修 4 回生 北野 結衣)

今回は主に出展ブースを担当した。幅広い年齢の方が様々な視点から生駒市に対する願いや魅力に感じていることを書いていて勉強になった。大人の方が書いているものの中で特に、地域の住み心地に関するものや、こどもたちのために思って書かれたものが多くあり、次の世代や住み続けられる街づくりについて考えている市民の方が多くいると分かった。「くらし、ひと、しぜん」と観点を分けていたが重なる部分も多くあり、地域の諸課題に対して多角的なアプローチを行うことが重要だと感じた。

(特別支援教育専修 3回生 志原 那歩)

「SDGs」と聞くと17項目の目標を連想させるが、大まかに分けたり、今回のように「くらし」「ひと」「自然」など幅を利かせたものにしたりとすると、自分たちの地域をSDGs的な視点で気軽に見つめることができるということを知った。また、生駒市について考えてもらうとき、世代や立場によって魅力だと感じているところや求めていることが異なっていたことに気付いた。様々な視点から一つの物事を見てみるのが大切だと改めて学んだ。

(社会科教育専修 3回生 山平 楓)

生駒の方が伝統やスポーツを大切に思っているということを知った。イベントで用いた木の模造紙には多くの背渇に関する願いの付箋が貼られていた。その中に生駒名産の茶筌のもととなる破竹の保全やサッカースタジアムが欲しいといった願いが見られた。今回のイベントを契機に衰退する伝統や地元のスポーツに一層関心を寄せ、行動してくれるアクティブな市民の方であふれる生駒市になってほしいと願う。本イベントから受けたエネルギーと学びを次の企画にも生かしたい。

(美術教育専修 2回生 東 瑞)

高校生と一緒にSDGsに関する〇×クイズをした。高校生や子どもたちの会話から、生駒市の市民の方たちがSDGsに関する意識を生活していることが分かった。しかし実際には、身の回りには〇×クイズのように簡単に答えが出せる問題ばかりでは無い。そのような問題も街全体で考え、一人一人が意識して生活していくことがSDGsに繋がると改めて感じる事が出来た。

教師になった際には、SDGsに関して学校がどのような役割を果たすべきなのかを考えていきたい。

(書道教育専修 2回生 神余 友唯)

今回学んだことの一つ目は声のかけ方だ。本イベント来場者の年齢層は幅広かった。そのため、簡潔にブースを説明する力や年代に合わせた話し方は大切だと学んだ。

二つ目は、SDGsの触れ方についてだ。今の子ども達は、SDGsという名前は触れる機会が多いため知っていると思う。しかし、名前を知ることによって終わってはいけないと考える。知った上で実生活との関連や、自分にできることを考える機会が重要だと考えた。

(社会科教育専修 2回生 木幡 美幸)

「くらしのブンカサイ in いこま」という、生駒市の地域発展をSDGsの観点から図るといったイベントの趣旨のもと実行委員会、ブース出店、ステージ発表に関わった。その中で、SDGsの事例について〇×問題として考えていくステージ発表を高校生と合同で行ったことが印象に残っている。SDGsの事例を挙げ、その事例の行動に賛成であるか、反対であるか、〇×で問いかけた。高校生は、ステージ発表のことを意識しながら、SDGsのことを分かりやすく伝えようと考えており、その姿勢に学ぶものがあった。

(国語教育専修 2回生 吉岡 優来)

今回の事で学んだ事は、生駒市に関する事で書いてくださった内容全てにおいて肯定している物ばかりではなかったが、改善してほしい事については具体的な内容や考えが書かれており、市全体で市の事を考えているということだ。また SDGs に関しては生駒市に住んでいる人が SDGs そのものを理解している訳ではなかったが、住みやすいまちづくりのために考えていることが SDGs に繋がっているため、学ぶべき点が多くあった。

(数学教育専修 1回生 奥村 壮之佑)

くらしのブンカサイでは主にステージでの発表を担当した。高校生と共に分責任を感じることもあった。さらに子供たちの参加によって成り立つ発表だったため子供たちがどのくらい関心を持ってくれるかが未知数だったことも不安だった。

本番は不安が嘘だったかのように大成功だった。高校生とも息の合ったパフォーマンスができたし子供たちも参加してくれた。

今回驚いたことは子供たちが SDGs について良く知ってくれていることだった。難しい内容かもしれないと思ったが、皆しっかり聞いてくれたり積極的に意見を出してくれたりした。出演者や観客含む皆の行動によって成功したと言っても過言ではないだろう。

(美術教育専修 1回生 坂本 大奈)



図1 来場者にブース内容を説明している様子

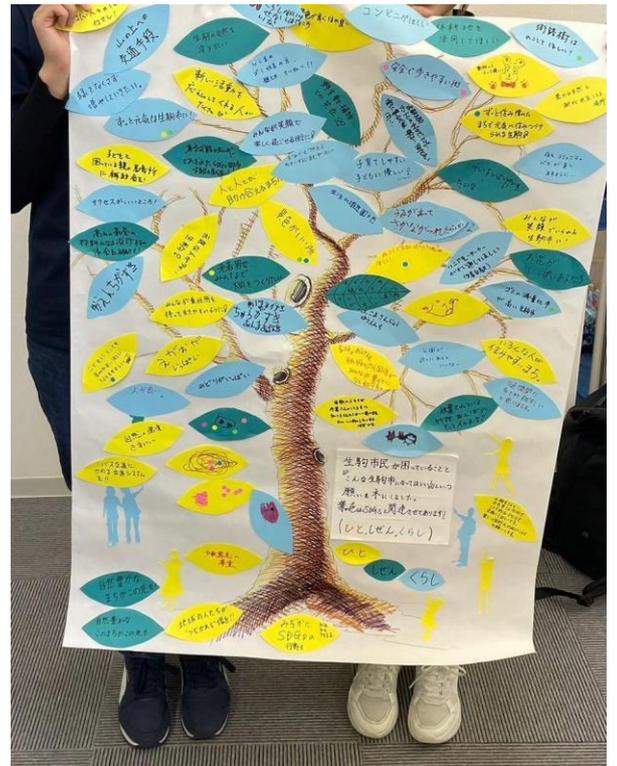


図2 ブース出展で来場者と作成したもの